

審議会での意見とその対応

参考資料3

<令和3年度第6回(3/25)>

- 意見要旨は、対応・検討を求めるものや提案・提起いただいているものを抽出しています。(質問等は除いています。)
- 当日のうちに回答を差し上げた意見については除いています。
- 何度か事務局とやりとりをされている場合は1つの意見に集約しています。

番号	委員名	意見要旨	対応
1	水内委員	プロモーションというものは、既にある魅力や犬山市が持っているけれども表に出ていないものを出すという意味合い。もう少し広義の意味で、魅力づくりを含んだブランディングという言葉を使うことができるのかどうかを検討してもよいと思いました。	他自治体の事例を参照したところ、シティプロモーション、シティセールス、シティブランディングといった言葉が使用されているものはありました。厳密な定義は異なるものの、どれも魅力づくりや魅力の磨き上げ等をし、それを外部に発信して「〇〇」というまちのイメージを醸成するという形になるかと考えました。犬山市においては、現在、シティプロモーションという言葉がよく使用されておりますので、ブランディングについてはシティプロモーションの中を含める形で整理しました。基本計画のシティプロモーションでは、その方向性を記載しています。
2	目黒委員	資料1の2ページの(1)役割に、「市民と行政が主体的かつ計画的なまちづくりを進めていくために」について、この会議でこれまで出てきていた、持続可能や循環といったキーワードがあるといいのではないかと思います。	序論2(1)の一文目を以下のとおり修正しました。「第6次犬山市総合計画は、長期的な市政の方向性を示し、市民と行政が主体的かつ計画的なまちづくりを進め、持続可能なまちを実現するために、次の3つの役割を担います。」 「循環」につきましては、計画の役割ではなく、目指すまちの姿を実現するための手法だと捉えています。したがって、ここではなく、基本構想等の中に、そのニュアンスを記載しています。
3	目黒委員	資料2の3ページの基本目標2「産業が栄えるまちへ」についても、市内で循環させてあまり外にお金を出さないとか、波及効果で市の中で大きくして循環させていくことが大事だと思うし、犬山市に足りていないところだと感じていたので、循環という言葉を入れて頂けたらと思いました。	地域内での経済の「循環」は大切な観点だと考えています。しかし、犬山市の産業は製造業を中心としたものとなっており、市内の主要な製造業では域外から調達している一方で域外への販売し、域内へ所得をもたらしています。したがって、産業全体について触れるここでは「循環」という言葉は使用せず、「事業者による様々な連携」と表現するにとどめています。一方で、6次産業化の取組みや観光面での域内循環につきましては、基本計画の施策2-1「農業」、2-2「観光」に記載しました。
4	鈴木会長	犬山は協働というコンセプトを掲げているので、市民の皆さんに理解して頂くだけでなく、市政への参加、参画が重要なポイントにしているので、参加、参画、協働を目指していきたいと思える記述や広報をしていかなければいけない。	「交流」「市民参加」「協働」については、「まちの将来像」等を実現するために必要な取組みとして位置付けを改めました。
5	鈴木(温)委員	中学生アンケート結果の中に犬山市のイメージのテキストマイニングがあり、歴史・文化について中学生が誇りを持っているように感じた。この歴史・文化的なところは、ブランディングにもつながるので、もっと基本目標に入れていいのではないかと思います。基本目標2は経済的な豊かさだけに特化しているような感じがするが、歴史・文化の豊かさとか精神的な豊かさみたいなものを書いても良いと思う。	前回資料では「犬山市の豊富な魅力」の中で表現したつもりでしたが、ご意見を踏まえて「歴史、文化、自然などの魅力が豊富な犬山市」と改めました。自然というキーワードも別の場面で出てきていますので、自然も加えています。
6	丹羽委員	資料1の2ページ目の2総合計画の概要(2)構成の三角錐のイメージ図は基本構想が一番大きくなるようなイメージにした方が良く思う。	ご意見を踏まえ、図を修正しました。
7	丹羽委員	資料1の23ページのまちづくりの主要課題についても、立てつけが逆だと思う。出された意見があり、それに対する方向性が示される流れで基本構想に移る方がよいのではないかと。	ご意見を踏まえ、「4. 市民のまちづくりについての意見」の「5. まちづくりの主要課題」順番に分けて記載しました。
8	丹羽委員	シティプロモーションの言葉が逆効果になっている。まず一番最初に選んでくださいとPRする言葉を、インパクトを持ってこない、プロモーションにならないんじゃないかと思う。	他委員からのご意見も踏まえてシティプロモーションにかかる記載を大きく修正しました。
9	間中委員	住んで歴史を実際に体感したり、自然を日常的に体感できるというようなことをアピールする言葉を入れられるといいと思いました。	基本目標1の対象については考えを整理し、ここでは「住む」人ではなく、「働く」「遊ぶ」「活動」といった広い意味での「暮らす」人のための取組みをここに掲載したいと考えています。なお、「遊ぶ」という言葉については、「暮らす」という言葉を使うことで、単に観光目的で来る人ではなく、定期的に犬山市を訪問する人を表しています。
10	鈴木(温)委員	基本目標1について、どちらかという自分で育っていくという感じですが、「育まれ」という言葉を使うと、歴史・文化も含めて、そこに住むことによって育まれていくという表現ができると思う。	ご意見を踏まえて修正しました。
11	水内委員	ネガティブな課題だけでなく、例えばこれはほかの市町には負けていないとか、この部分は突出してすごいところだということも同時に認識すると良いと思う。	新たに「4(1)まちづくりに対する実感」を追加し、市民が感じている特長＝強みを記載しました。

番号	委員名	意見要旨	対応
12	森好委員	男女平等と言われながらも、子育てや介護等のタイミングで働き方について女性が考えていくことがとても多いので、働き方についてもどこかに言葉が出てくるとよいと思う。	基本目標①では、「多様な人たちが、このまちで成長しながらイキイキと健やかに暮らすことができる」という形で表現しました。 また、本日資料として提出した基本計画では「1-1子育て」では「子育てと女性の活躍応援」を、「1-7多様性」では「男女共同参画推進事業の実施」を記載しています。
13	増田委員	全体的に読んでみると、利用価値の高いまちという感じのことが書いてあるような印象を受ける。住みたいまち、ここで生活したいまちというところをもう少し入れたいなと思いました。	他委員からのご意見も踏まえてシティプロモーションにかかる記載を大きく修正しました。
14	鈴木会長	選んでもらうというのは古い。住んでいる人からすると、ということは現状選ばれないまちと捉えてしまうので、ネガティブなイメージが先行する。	他委員からのご意見も踏まえてシティプロモーションにかかる記載を大きく修正しました。
15	丹羽委員	まちづくりのイメージは今後変更する可能性があるとのことだが、このまちに住んでほしいというイメージを持てるんだとしたら、このまちが人を育みます、人を育てますというイメージの絵のほうがしっくりくるんじゃないかと思う。	基本目標、行財政、シティプロモーション等を分かりやすく表現するために、イメージ図を作成しましたが、かえって分りづらくなってしまったと反省しました。 基本目標等に構成を変更し、できるだけ文章で表現するとともに、体系図という形で表現することにしました。
16	鈴木会長	犬山の作られてきた魅力なり価値はどこにあるのかということが読み取りにくい。「積極的にこういういいまちを作ってきた。だから住み続けるといいよ」、あるいは「選ぶといい」という願いを込めたメッセージになり切っていない。 どんな魅力を内包したまちになってきたのか、市民のみんなが誇れるところはどこなのか、というところがこの文章からは読み取りにくい。	具体的な「魅力」については、今回の市民意識調査では聞いていませんが、まちの印象について聞いています。 このアンケート結果を図化し、序論「4（1）まちづくりに対する実感」の中で「市民が実感している特長」としてまとめました。 同時に、よくなかったものを「市民の実感から見た改善点」としてまとめました。

<令和4年度第1回(5/17)>

○第6次総合計画の策定に係るものを抽出して掲載しています。

○当日のうちに回答を差し上げた意見については除いています。

番号	委員名	意見要旨	対応
1	ビアンキ委員	城下町はにぎわいが戻ってきているが、もう少し市民のための楽しいにぎわい事ができればいい。文化会館でコンサートをやる。そういった施設を活用すればよい。	基本計画の施策1-3「生涯学習」に「文化芸術活動の推進」を記載しました。 コンサートについては、個別具体的な内容となりますが、総合計画への表現は施策の指針を記載したいと考えております。
2	松浦委員	観光にみえた方と市民の交流のようなものが生まれるといいと思う。	基本計画の施策2-3「観光」に「市民と観光客の共存・調和」の推進を記載しました。その中では、「おもてなしの向上」という言葉で表現しています。
3	間中委員	住民と観光を結び付けるものがあるとよい。住民が観光地であることを楽しんでいることが外部へのアピールポイントになる。 犬山城への無料・定額パスポートやスタンプラリーなど。	基本計画の施策2-3「観光」に「市民と観光客の共存・調和」の推進を記載しました。その中では、「おもてなしの向上」という言葉で表現しています。 犬山城にかかるご意見につきましては、個別具体的な内容となりますが、総合計画への表現は施策の指針を記載したいと考えております。
4	松浦委員	地元のものや特産品など、いいものをどうやって観光でみえた方に接点として渡していく、伝えていくか。	地元のものや特産品につきましては、基本計画の施策2-3「観光」に「資源発掘・創造ブランド形成」の中に含めたものとして記載しています。 伝えていく手法につきましては、現在、パンフレットの作成や特産品協会のHPへの掲載、ふるさと納税の返礼品としても取り扱っています。
5	奥村委員	市民と観光の関係で、市民がまちの文化をよく知り、誇りに思い、外部の人に説明できるシステム、全市博物館構想が進むとよい。 市民がトレーラーとなり来訪者に説明できるように自分たちのまちの知識を得る。そういうものが手つかず。	基本計画の施策2-3「観光」に「市民と観光客の共存・調和」の推進を記載しました。その中では、「おもてなしの向上」という言葉で表現しています。
6	間中委員	子育て世代はまちの利便性を求めるが、対応するにも限界がある。それを上回って犬山に住みたいと思うものを考えないといけない。	基本計画の施策「シティプロモーション」に「魅力の発掘、磨き上げ、創出」を記載しました。
7	奥村委員	犬山市に全時代の博物館ができてほしい。	犬山市文化史料館において、犬山城・城下町以外をテーマにした企画展を開催したり、青塚古墳ガイダンス施設で時代・地域を限定せず、市内の様々な考古資料を展示したりするなど、複数の施設で補完し合いながら市内の全時代・全地域の文化財を紹介できるよう努めています。
8	間中委員	今はSNSがあるので、住民が犬山を宣伝することが一番効果的と思う。	基本計画の施策「シティプロモーション」に「シビックプライドの醸成」を記載しました。まずは、住民に犬山市に住んでいることを自慢に思ってもらうこと。そして、住民による宣伝につなげたいと考えています。
10	森好委員	市民活動を行っている人は少数であり、高齢化している。小さいころから犬山の魅力を知り、家族に話し、みんなで行って見て、発見があり、愛着が育まれる。活動している人に出会う。 そんなきっかけづくりが子どものうちからできるとよい。	子ども大学の開催や市内で活動するNPO等により、子ども向けの講座が開催されています。 現在の基本計画では、このことに特化して取組みの方向性が記載されているわけではありませんが、関連する施策の中にちりばめられています。
11	間中委員	東京は働きやすい、犬山は働きにくいというイメージがある。その辺のサポートが必要。	基本計画の施策「シティプロモーション」では、住む場所としてのイメージ醸成に取り組むと考えています。「働く」という点も住むことには密接に関わっていますので、シティプロモーションの中で取り組むことを想定しています。
12	田村委員	西小の外観から、老朽化の心配がある。耐震がしっかりしていればよいかもしれないが、見た目にも気を配れるとよい。子どもたちが学校で過ごしやすくなれるような視点を持つことが大事。	小中学校等の施設管理につきましては、市内全体のバランスの中で、計画的に進めているところです。 基本計画の施策1-2「教育」に「施設の計画的な維持管理・更新」を記載しました。
13	奥村委員	5次総の指標の立て方に疑問のある箇所がある。そういったもの見直しをするべき。	指標を設定する際の参考とさせていただきます。

番号	委員名	意見要旨	対応
14	丹羽委員	第5次総合計画の進捗管理や達成度評価が、次の6次計画へどうつながっていくのか。申し送りとか、そういう構想を立てているのか。 KPIも、細かくつけすぎて、できもしないものをやってもしょうがない。 ある程度見通せてやれる内容に絞り込むということをやらないといけない。 目標だけ作って達成できなければ意味がない。そもそも指標が要るのかということも含めて考え直さなければいけない。	KPIにつきましては、その後の検証作業も踏まえて、今後、検討する予定です。 いただいたご意見につきましては、指標を設定する際の参考とさせていただきます。
15	丹羽委員	35.11%という低い数値が結果として出ていて、なぜできていないのかを検証する必要がある。 何がウイークで、何がストロングかをまとめ上げて、ウイークに対してどうしますかをきちんとやらないといけない。何がよくて何が悪かったかメリハリをつけないと。	現在、総合計画、各個別計画、各種事業等についての考え方を整理しています。 審議会当日にご説明したいと考えています。
16	丹羽委員	数値を達成することも大事だが、やるべき内容はそのプロセス。そこへ達成するプロセスが十分に吟味されているか、ということ。	総合計画、各個別計画、各種事業等についての考え方を整理しています。 審議会当日にご説明したいと考えています。
17	目黒委員	犬山は消費が流出しているのが経済の循環が弱い。対策として、地産地消を取り入れて市内で循環していくことを考えていくべき。	基本計画の施策2-1農業に「地産地消の推進」を記載しました。また、循環につながる「農産物のブランド化」についても記載しています。
18	岡村委員	男女共同というフレーズが古い。今はジェンダー平等。トランスジェンダーやマイノリティの方を含め考えていく視点が必要。	意見をいただいた後、他市の事例等を調査しました。また、ジェンダー平等という言葉も調べましたが、SDGs関係以外ではあまり見つからなかったため、現在の基本計画（案）では、「男女共同」という言葉を使用しています。 審議会でご意見をいただけたらと考えております。
19	増田委員	指標を絞るのか、重点項目を決めるのかを決めたほうがよい。	指標を設定する際の参考とさせていただきます。
20	本巢委員	予算をつければ実施できた指標は評価に馴染まない。	指標を設定する際の参考とさせていただきます。
21	丹羽委員	何をやるのかということを目標にするべき。お金をかけて何かする、イベントやるとか、どれだけやるとか、そういうのが目標だと思う。	指標を設定する際の参考とさせていただきます。
22	水内副会長	上位目標にきちんと紐づいた下位目標に対して評価をしていかないとけない。	指標を設定する際の参考とさせていただきます。